

●公益法人Ⅲa Version 8.110、公益法人a Version 9.110

当プログラムは、マイクロソフト社のサポート対応終了に伴い、Windows XP・Vista・7 搭載機へのインストールは不可となっています。

- ◆ ATLASシリーズのバージョンアップに伴う対応を行いました。
- ◆ その他の改良、修正を行いました。

※詳細は、次ページからの“公益法人Ⅲ d b（VERSION:8.110）、公益法人 d b（VERSION:9.110）の変更点”を参照してください。

公益法人Ⅲ d b (VERSION:8.110)、公益法人 d b (VERSION:9.110)

の変更点

改良・修正 (公益法人Ⅲ)

I. 決算

- 1) 決算書
- 2) 内訳書

①F6 項目登録

- ・正味財産の残高がない場合、貸借対照表に項目を表示する対応を行いました。
貸借対照表タブの正味財産の部に、「残高が0円の時、見出し、合計行を出力する」のチェックボックスを設けました。

*「残高が0円の時」とは、正味財産の増減額及び固定資産への充当額のいずれも0の場合を指します。この場合にチェックONで出力される項目と対応は次のとおりです。

- ・指定正味財産 (見出し項目) を出力します。
- ・指定正味財産合計 (合計項目) を金額0で出力します。
- ・一般正味財産 (見出し項目) を金額0で出力します。

チェックOFFの場合は、従来どおりに出力します。

《指定正味財産の残高が0の場合》

《一般正味財産の残高が0の場合》

科目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1 流動資産			
定期預金	3,000,000		3,000,000
流動資産合計	3,000,000	0	3,000,000
2 固定資産			
(1) 基本財産			
建物	35,000,000		35,000,000
基本財産合計	35,000,000	0	35,000,000
固定資産合計	35,000,000	0	35,000,000
資産合計	38,000,000	0	38,000,000
II 負債の部			
負債合計	0	0	0
III 正味財産の部			
1 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2 一般正味財産	35,000,000	0	35,000,000
(内基本財産への充当額)	(35,000,000)	0	(35,000,000)
正味財産合計	35,000,000	0	35,000,000
負債及び正味財産合計	38,000,000	0	38,000,000

科目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1 流動資産			
定期預金	13,000,000		13,000,000
流動資産合計	13,000,000	0	13,000,000
2 固定資産			
(1) 基本財産			
建物	25,500,000		25,500,000
基本財産合計	25,500,000	0	25,500,000
固定資産合計	25,500,000	0	25,500,000
資産合計	41,500,000	0	41,500,000
II 負債の部			
負債合計	0	0	0
III 正味財産の部			
1 指定正味財産			
指定正味財産合計	41,500,000	0	41,500,000
(内基本財産への充当額)	(25,500,000)	0	(25,500,000)
2 一般正味財産	0	0	0
正味財産合計	41,500,000	0	41,500,000
負債及び正味財産合計	41,500,000	0	41,500,000

*基金関係 (見出し、分類項目、代替基金) についてはチェックの有無に影響されず、従来どおり残高がないかぎり出力しません。

- ・共通タブに部門名称の出力選択機能を設けました。(附属明細書改良に伴う対応です。)
総合計部門を法人全体として出力させるための対応ですが、設定はすべての部門に反映します。
部門名称を出力 / 部門コード・名称を出力 / 出力しない から選択します。初期値は、“部門コード・名称を出力”及び“各ページに出力する=ON”に設定されています。
各ページに出力する にチェックを付けると各ページに出力します。

※附属明細書の F6 項目登録にも同機能を設けました。ただし共通の設定ではありません。

部門表示	部門コード・名称を出力
<input checked="" type="checkbox"/> 各ページに出力する	
科目名称の出力	均等割り

- ・正味財産の増減額がなく固定資産への充当額のみ発生している場合、貸借対照表の正味財産の部に見出しや合計行が表示されていなかったのを修正しました。
- ・正味財産増減計算書の基金期末残高において、決算書で前年度・当年度とも 0 の場合、または内訳表でいずれの部門も 0 の場合、基金期首残高の行までしか表示していなかったのを、基金期末残高まで表示するように修正しました。
- * 「決算書で前年度・当年度とも 0」とは、前年度に基金の返還が行われたことで基金残高が 0 となり、かつ当年度で基金の発生がないケースです。前年度・当年度とも基金の発生がない場合は、従来どおり基金増減の部自体を出力しません。

3) 附属明細書

①引当金の明細

- ・当期減少額（その他）以外の欄も編集できるように対応しました。
引当金科目の貸方金額は「当期増加額」欄へ、借方金額は「当期減少額（目的使用）」欄へ計上しますが、部門間の金額移動のためなど振替仕訳を起こすことで移動元の部門で貸借属性が逆になる場合、相対する欄へ計上され、当該科目からの減額表示とすることができませんでした。今回、手入力の範囲を「当期減少額（その他）」以外のすべての欄に広げることで、表示を任意に変更できるようにしました。

仕訳入力

1	04.01	0005	0005	5,000,000	0不課	
		他経常外費用 1	退給付引当/管	事業本部へ計上		
2	05.01	0005	0001	2,000,000		
		退給付引当/管	退給付引当/管	事業本部から実施A部門へ振替		

引当金の明細 – 財務連動時

[0005] 事業本部		合計部門へ転送				
番号	科目名	期首残高	当期増加額	当期減少額(目的使用)	当期減少額(その他)	期末残高
6	退職給付引当金/管理費	0	5,000,000	2,000,000	0	3,000,000

引当金の明細 – 実額編集時

[0005] 事業本部		合計部門へ転送				
番号	科目名	期首残高	当期増加額	当期減少額(目的使用)	当期減少額(その他)	期末残高
6	退職給付引当金/管理費	0	3,000,000	0	0	3,000,000

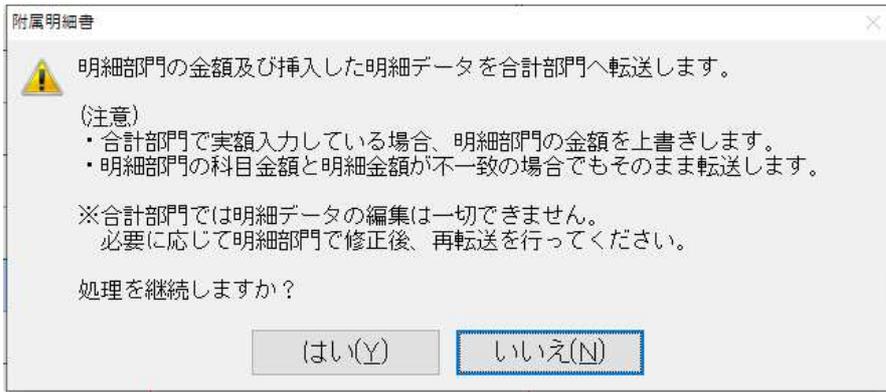
- * 連動時、「当期減少額（その他）」を入力すると、「当期減少額（目的使用）」から控除しますが、「当期減少額（目的使用）」が実額の場合は、「当期減少額（その他）」を入力しても控除されません。「当期減少額（目的使用）」と「当期減少額（その他）」を合わせた額が当期減少額合計となるように実額入力してください。

②合計部門へ転送

- ・合計部門への転送機能を追加しました。

部門	出力パターン 1	詳細
[01000001] 実態調査部門		合計部門へ転送

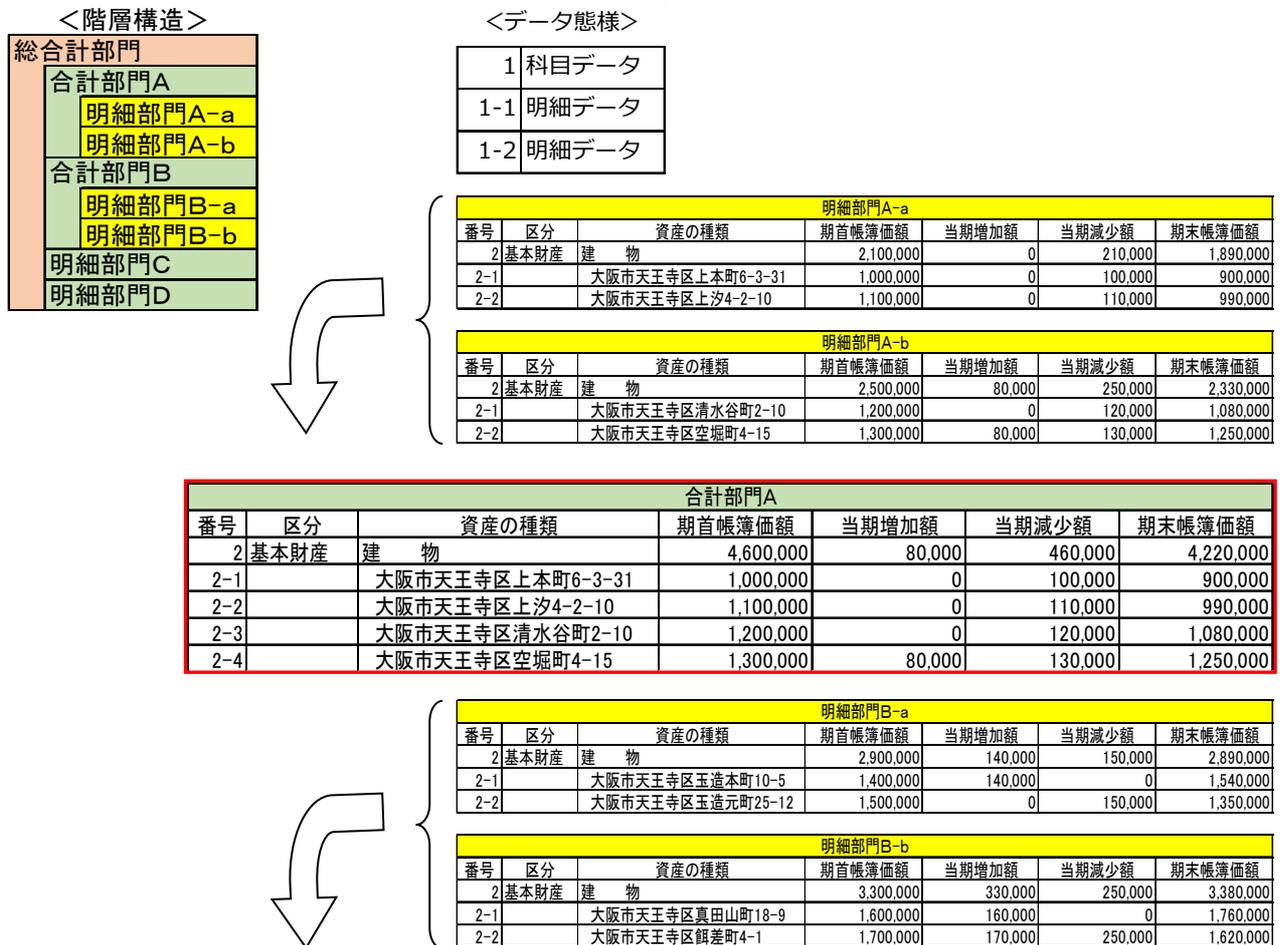
* 合計部門へ転送ボタンを押すと下記メッセージを表示したのち転送処理へ入ります。

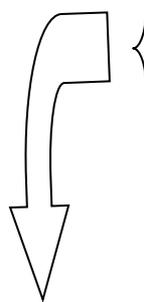


* 合計部門へ転送する内容は次のとおりです。

- ・各科目の期首残高、期末残高、当期増減金額（財務データからの集計値及び実額値）
- ・科目の下に追加した明細データ（文言及び金額）

* データの転送態様は以下のとおりです（基本財産及び特定資産の明細で例示します）。





合計部門B						
番号	区分	資産の種類	期首帳簿価額	当期増加額	当期減少額	期末帳簿価額
2	基本財産	建 物	6,200,000	470,000	400,000	6,270,000
2-1		大阪市天王寺区玉造本町10-5	1,400,000	140,000	0	1,540,000
2-2		大阪市天王寺区玉造元町25-12	1,500,000	0	150,000	1,350,000
2-3		大阪市天王寺区真田山町18-9	1,600,000	160,000	0	1,760,000
2-4		大阪市天王寺区鶴差町4-1	1,700,000	170,000	250,000	1,620,000

明細部門C						
番号	区分	資産の種類	期首帳簿価額	当期増加額	当期減少額	期末帳簿価額
2	基本財産	建 物	3,700,000	190,000	180,000	3,710,000
2-1		大阪市天王寺区城南寺町17-10	1,800,000	0	180,000	1,620,000
2-2		大阪市天王寺区空清町1-5	1,900,000	190,000	0	2,090,000

明細部門D						
番号	区分	資産の種類	期首帳簿価額	当期増加額	当期減少額	期末帳簿価額
2	基本財産	建 物	4,100,000	150,000	410,000	3,840,000

総合計部門						
番号	区分	資産の種類	期首帳簿価額	当期増加額	当期減少額	期末帳簿価額
2	基本財産	建 物	18,600,000	890,000	1,450,000	18,040,000
2-1		大阪市天王寺区上本町6-3-31	1,000,000	0	100,000	900,000
2-2		大阪市天王寺区上汐4-2-10	1,100,000	0	110,000	990,000
2-3		大阪市天王寺区清水谷町2-10	1,200,000	0	120,000	1,080,000
2-4		大阪市天王寺区空堀町4-15	1,300,000	80,000	130,000	1,250,000
2-5		大阪市天王寺区玉造本町10-5	1,400,000	140,000	0	1,540,000
2-6		大阪市天王寺区玉造元町25-12	1,500,000	0	150,000	1,350,000
2-7		大阪市天王寺区真田山町18-9	1,600,000	160,000	0	1,760,000
2-8		大阪市天王寺区鶴差町4-1	1,700,000	170,000	250,000	1,620,000
2-9		大阪市天王寺区城南寺町17-10	1,800,000	0	180,000	1,620,000
2-10		大阪市天王寺区空清町1-5	1,900,000	190,000	0	2,090,000
2-11		明細部門D	4,100,000	150,000	410,000	3,840,000

- * 合計部門へ転送された明細データは、明細部門ごとに並びます。
- * 階層途中の合計部門及び総合計部門へ転送します。法人全体には転送を行いません。
- * 転送後の合計部門では明細データの変更や行追加・削除を行えません。行の入替えは可能です。
- * 各明細部門で集計されたデータと合計部門のデータは一致するのが基本ですので、合計部門のデータを編集していても、転送を行うことにより常に明細部門のデータに置き換わるしくみにしています。
- * 科目金額と明細金額が不一致であってもそのまま転送を行います。入力誤りのため一致しない場合は、明細部門で修正後再転送を行ってください。
- * 明細部門について、明細データの有り無しが混在する状態で転送すると、明細行の登録がない明細部門の科目金額が、合計部門の明細行として一本で作られます。その場合の資産の種類（科目名）は明細部門名称を表示します（前ページ画像：総合計部門の2-11行目）。名称を変更する場合、該当する明細部門で明細データを一件作成し再転送を行ってください。
- * 前述のとおり合計部門の実額は明細部門からの転送によってクリアされます。ただし、明細部門が登録されていない合計部門で入力した実額は、それ自身明細部門とみなして上位の合計部門へ転送します。
- * 文言や金額が未入力の明細データを転送した場合、合計部門に番号付きの空行が設けられますが、印刷時にはないものとして以降の行を詰めて表示します。

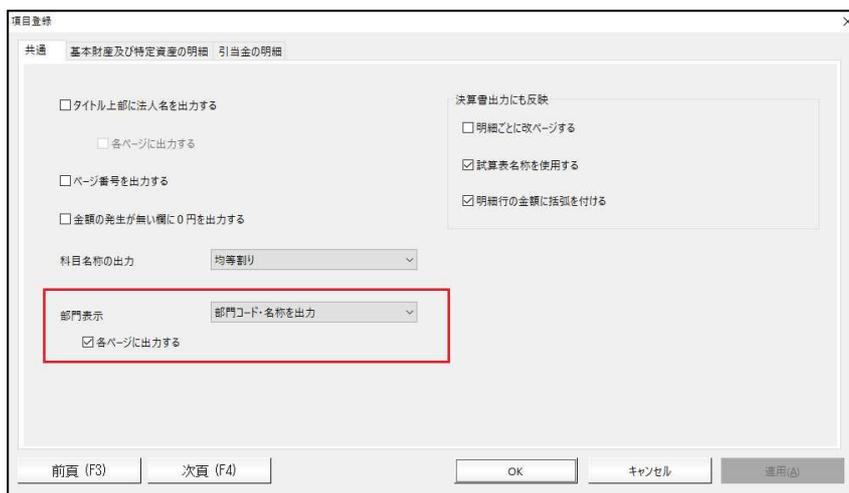
③F6 項目登録

- ・部門名称の出力選択機能を設けました。

総合計部門を法人全体として出力させるための対応ですが、設定はすべての部門に反映します。

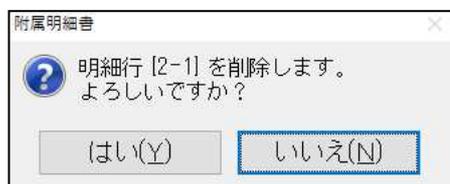
部門名称を出力 / 部門コード・名称を出力 / 出力しない から選択します。初期値は、“部門コード・名称を出力”及び“各ページに出力する=ON”に設定されています。

※決算書の F6 項目登録にも同機能を設けました。ただし共通の設定ではありません。



④F8 明細削除

- ・明細行を削除する際のメッセージ文言に行番号を出すようにしました。



⑤その他修正

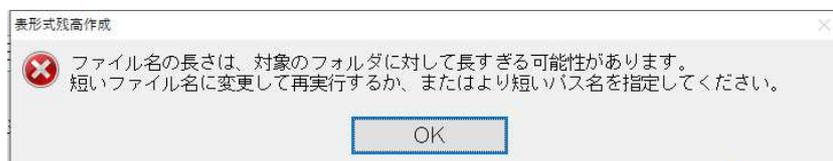
- ・決算確定済のマスターにおいて、金額入力や明細行の追加などを行えないように修正しました。
- ・科目行および明細行の期末帳簿価額欄または期末残高欄を横計のみとし、編集不可としました。

その他 改良

I. 表形式

1) 全般

- ①各業務において、ファイルの文字数を拡張しました。(最大 260 バイト)
ファイル名が半角で 258 文字を超えた場合は、下記メッセージを表示します。
(ドライブ名で、3 文字 (D:¥) を使用します。)



- 2) 表形式残高作成
- 3) 表形式枝番残高作成
- 4) 表形式部門残高作成
- 5) 公益表形式残高作成
- 6) 公益表形式部門残高作成

①「ファイル名を会社ごとに保存する」を追加しました。

・マスターごとにファイル名を保存できるように「ファイル名を会社ごとに保存する」設定を追加しました。

「ファイル名を会社ごとに保存する」にチェックを付けた場合、会社単位でファイル名が保存されます。

また、「ファイル名を会社番号に反映させる」の設定も会社ごとに保存するようにしました。

※チェックの状態は「残高作成」を行わないと保持されません。

表形式残高作成

出力形式 試算表 処理月 01年 10月 31日

抽出期間 当期

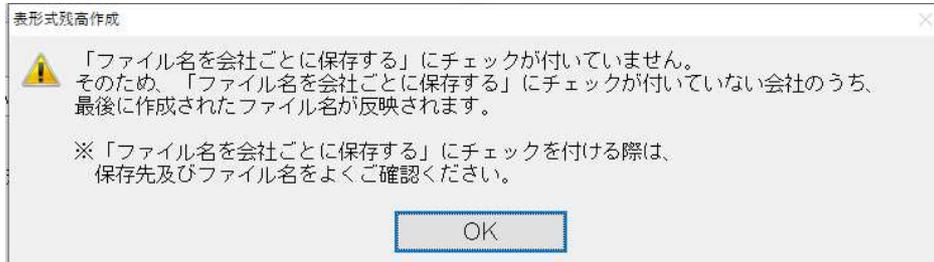
ドライブ名 D:

ファイル名 ICSWin¥WORK¥SISAN.CSV

前期以前の出力科目数を当期と同じにする
 科目並びを内部コード順にする
 発生差額出力
 縦計出力
 ファイル名に会社番号を反映させる
 ファイル名を会社ごとに保存する

残高作成

※「ファイル名を会社ごとに保存する」にチェックを付けていない会社を選択した時は、下記メッセージを表示します。



ただし以下のいずれかに該当する場合は、メッセージを表示しません。

* 「ファイル名に会社番号を反映させる」にチェックが付いている。

* 最後に CSV 作成されたファイル名欄に表示されているファイル名が、ICS の初期のファイル名で使用している。

(保存先のフォルダは、判定に影響しません。)

例. 「1.表形式残高作成」出力形式 = 「試算表」を選択した時に、ファイル名が ICS の初期のファイル名「SISAN.CSV」と表示されている場合はメッセージを表示しません。

表形式残高作成

出力形式 処理月 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 決

抽出期間

ドライブ名

ファイル名

前期以前の出力科目数を当期と同じにする
 科目並びを内部コード順にする
 発生差額出力
 縦計出力
 ファイル名に会社番号を反映させる
 ファイル名を会社ごとに保存する

ご注意ください。

- ・「ファイル名を会社ごとに保存する」のチェックは出力形式や各業務を通して共通です。
例えば、出力形式＝試算表で保存先及びファイル名を設定して「ファイル名を会社ごとに保存する」のチェックを付けてファイル作成した後、出力形式＝推移表などに切り替えた時や別の業務を開いた時はチェックが付いていますが、その時の保存先及びファイル名は必ずしも適切なものとは限りません。
保存先のフォルダ及びファイル名は必ずご確認ください。

7) 表形式仕訳データ取込

8) 表形式出納帳データ取込

9) 表形式振替伝票取込

- ・部門番号が合計部門番号の場合、仕訳の取込は行いますが、部門コードは取り込まないようにしました。

その他 修正

I. 登録・入力

1) 仕訳入力

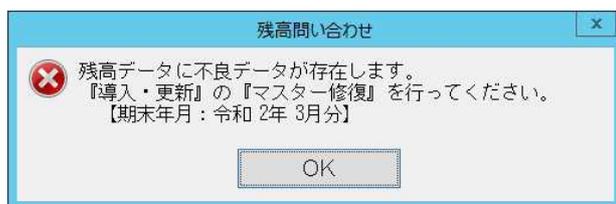
- ・通常入力から出納帳入力に切り替えて仕訳表示をした際に、新規入力行の仕訳の日付が、入力済みの最終仕訳の日付ではなく、月指定の最終月の日付が表示されていたのを修正しました。
- ・出納帳入力で仕訳挿入をすると、入力できない日付があったのを修正しました。
(例) 4月10日と4月15日の仕訳があり15日の上に仕訳挿入をした場合、10日から14日の日付は入力できるが、15日の日付が入力できなかった。
- ・解像度 1366×768 の場合、通常入力から振替伝票修正画面を表示させると、処理終了などのボタンが少し切れていたのを修正しました。
- ・仕訳貼り付けを行ったときに「エラーコード 0202 動作環境が不完全です。検索表示データアンダーフロー」のエラーメッセージが表示される場合があったのを修正しました。
F8 仕訳検索→複数仕訳を選択してコピー→仕訳ダブルクリックで入力画面に移行→仕訳挿入→仕訳貼り付けを複数回行うと現象が出ていました。

2) 科目設定・残高登録

① 枝番残高登録

- ・部門枝番処理を行うマスターで、枝番残高登録タブの「部門科目枝番登録」で追加登録した場合、「残高問い合わせ」業務で「残高データに不良データが存在します。『導入・更新』の『マスター修復』を行ってください。」のメッセージを表示していたのを修正しました。

※お手数をお掛けしますが、すでに現象が起きたマスターは「マスター修復」を行ってください。



II. 出力

1) 総勘定元帳

- ・簡易課税や個別対応で、「内 10 卸」「内軽サ」「内 10 課」等と表示するべきところ、「内卸」「軽サ」「内課」のように 2 文字で表示していたのを修正しました。

III. 通信・移動

1) 会計事務所へマスター&データ転送

- ・メール送信を行ったあとに「文字列データ又はバイナリデータが切り捨てられます。ステートメントは終了されました」と表示される場合があったのを修正しました。
上記メッセージの他に「文字列・・・付近に不適切な構文があります。」と表示される場合もありました。

以上